

平成 2 7 年度事業報告

自 平成 2 7 年 4 月 1 日
至 平成 2 8 年 3 月 3 1 日

公益財団法人名古屋産業科学研究所

平成27年度事業概要

I. 概況

本年度は、公益法人改革制度の主旨に沿った改革を継続的に進めると共に、当財団を取り巻く事業環境変化に対応すべく、新たな試みとする事業の展開と共に、今後の事業模索・調査等も引き続き進めてきた。

公益目的に沿い、且つ、時流の変化や産業界のニーズにマッチさせつつ、これまで築いた当財団が保有する人的資源や差別化スキルを、より有効活用できる事業企画とその具体的な活動展開を図った。

また、トピックとしては、8月に内閣府当局からの立入検査を初めて受け、その結果としては、特段の指導勧告を受ける事象はなかった。

II. 公益事業

1. 研究事業（公1）

(1) 研究推進事業

本研究所の研究職員による自主研究、及び国庫等補助金による公募型競争的研究事業を実施。実施規模は前年度とほぼ同水準。

研究事業 79件（前年度 73件）

研究会研究事業 3件（前年度 2件）

委託研究事業 15件（前年度 13件）

(2) 知見交流・発信事業

フォーラム、講演会、及び技術相談・指導等に研究職員を派遣。

開催回数／派遣件数は、前年度より若干増加。

産業科学フォーラム 3回5講師（前年度 3回6講師）

技術相談・指導 12件（前年度 7件）

講師派遣（講演） 7件（前年度 2件）

市民講座 1件4講師（前年度 1件4講師）

(3) 産学連携推進支援事業

公的資金活用プロジェクト（サポイン事業／戦略産業支援のための基盤整備事業）及び愛知県委託事業（循環ビジネス）を継続実施。

・サポイン事業 5件（前年度 6件）

・戦略産業支援基盤整備事業 1件（前年度 1件）

・愛知県委託事業 4名派遣（前年度 4名派遣）

2. 人材育成事業（公2）

(1) 集合研修

① あいち環境塾

愛知県との共催で環境関連のリーダー育成と産学官ネットワーク形成を目的として毎年定員 20 名で開講している。内 1 回一般公開講座として開催。

② 技術経営（MOT）研修

（公財）科学技術交流財団との共催で、毎年人気の高い研修になっており、本年度も継続して開催した。今年度は会場を名商ビル会議室と知の拠点を併用し、募集枠を 48 名とした。また、講義内容もより企業ニーズにマッチさせて入替を実施し、前年以上の高い受講者評価を得た。

(2) 出張研修

- ・本年度は成り行き受注としていたが、問合せあるも結果として未実施で終わり、次年度以後に対してのテコ入れ策を検討するのみに留まった。

(3) e ラーニング

1 講座追加し、工学シリーズとして全 7 講座を揃え、ネット広告等の広報にも注力したが、当年度は 58 名の受講者数に留まり、開講後の累計でも 262 名と当初計画数（2000）には遠く及ばない結果のため、2 年間の「トライアル」事業で凍結し、次年からの本格展開はしない。

3. 技術移転事業（公3）

(1) 技術移転活動

大型ライセンスの候補案件が少なかった事、医薬原料に関する大型収入を見込んだライセンス先企業の生産調整があった事等が影響し、ライセンス収入は大幅減となった。当面更に厳しい状況となる予測に立ち、成果報酬に繋がる技術の育成面にも注力する方向で検討中。

(2) 連携大学よりの業務委託

連携する大学より、下記業務を受託して活動中である。

- ・発明評価業務（発明発掘含む）
- ・市場性評価業務
- ・マーケティング業務（特許、成果有体物、データベース等）
- ・企業とのマッチング（共同研究仲介）
- ・J S T 申請業務

III 収益事業

本研究所の所員・研究員により、企業からの研究委託に基づき、産業技術に関する研究を次のように実施した。

受託研究	27 年度完了	85 件
受託研究	28 年度以降継続	15 件
	計	100 件

(26 年度実績：完了 83 件、継続 20 件、28 年度目標件数：新規 90 件、継続 15 件)

IV 決算概況

平成 27 年度期末時点の財産状況

正味財産は 1,578,778 千円

財務諸表での正味財産増減

経常収益 413,831 千円、経常費用が 433,715 千円

27 年度の当期経常増減額は、▲19,884 千円であった。

1) 収支相償：公益目的事業の収入がその事業の費用を超えないこと

収入 269,955 千円 < 支出 284,855 千円

〔	239,618 千円	+	30,336 千円	〕	〔	286,683 千円	-	1,827 千円	〕
	公益事業収入額		他会計振替額			公益事業費用額		公益事業減価償却額	

2) 公益目的事業費率が全体の 50%以上であること

公益目的事業費率 (①÷①～③の合計額) = 66.1% (前年度 72.9%)

①公益目的実施費用額 = 286,683 千円

②収益等実施費用額 = 134,232 千円

③管理運営費用額 = 12,799 千円

V 広報活動

当財団のホームページを継続的に見直し、公開・公募情報、各事業部の最新リリース情報の紹介、フォーラム案内、ニュース等を発信すると共に、財団認知度を上げる目的で、フェイスブックのアップも実施している。

アクセス度合の調査・評価も行いトレンド分析にも努めているが、最新の傾向としては、産学連携事業（経産省補助事業）や研究者名へのアクセス度合が高い。

但し、ホームページについては、これまで各部で委託している専門職員が担当して 3 部門独自に制作してきた事情から、統一性のないものになっており、この点でユーザー視点に立った根本的な見直しと、今後の専門職確保難を想定して、H28 年度に外部業者へ委託して全面リニューアルをする計画である。(平成 28 年 3 月理事会にて承認済)

以上

平成27年度事業報告

I 公益目的事業

研究事業（公1）

1. 研究推進事業

(1) 自主事業

① 研究事業

本研究所の研究職員が年度当初に設定した産業の科学技術に関する基礎的研究を、79件実施した。

(26年度実績：73件、28年度目標件数：90件)

② 研究会研究事業

上席研究員を主査又は研究代表者とする「研究会」を3件設置し、設立趣旨に沿った研究活動を推進した。また、研究成果はホームページにおいて公開した。

(26年度実績：2件、28年度目標件数：4件)

(2) 委託研究事業

国庫等補助金研究事業（科学研究費助成事業）

研究職員が国等の求める優先的な研究課題を設定して公募型競争的研究事業に応募し、公平な審査・採択を経て15件（分担者分3件含む）の研究を実施した。

(26年度実績：13件、28年度採択件数：12件)

2. 知見交流・発信事業

(1) 産業科学フォーラム

時宜に適した産業の科学に関するテーマを選定し、フォーラムを3回開催（原則公開）し、上席研究員や大学教授5講師からの話題提供を基に活発な議論を行った。

(26年度実績：3回、6講師、28年度目標開催回数等：3回、5講師)

(2) 技術相談・指導

企業・団体等から個別に要請のあった技術相談や指導等12件に上席研究員を派遣して、企業等の抱える課題の解消や研究開発能力の向上に寄与した。

(26年度実績：7件、28年度目標件数：10件)

(3) 講師派遣

行政・企業等から依頼があった講演7件に上席研究員を派遣した。

(26年度実績：2件、28年度目標件数：5件)

(4) 科学技術の啓発活動

名古屋市教育委員会生涯学習推進課大学連携キャンパス講座として一般市民を対象とした「達人と話そう 祝・ノーベル賞」を名古屋大学博物館との共催事業で実施し、上席研究員等4名の講演を行った。（資料1-6）

(26年度実績：1件、4講師、28年度実施予定件数等：未定)

産学官連携支援事業（公1）

下記の公的資金活用プロジェクト及び愛知県委託事業を実施した。（単位：千円）

事 項		内 容	事業費	
1) 公的資金活用プロジェクト	①サポイン ※1	5件 実施（継続3件、新規2件）	102,041	
	サポイン 受託事業内訳	継 続	・スライド構造を持つ超微細なカテーテル	15,585
			・金型の長寿命化を実現するニュートラル窒化処理装置の開発	11,384
		新 規	・レーザーとプラズマによる異種材料直接接合	11,307
			・コンポジット成形と、多層構造プラスチックの開発	40,871
	②戦略産業支援のための基礎整備事業 ※2	・六価クロムフリーメッキ	22,894	
		戦略分野コーディネータ事業(素材分野)	31,545	
2) 愛知県委託事業		循環ビジネス事業化促進コンサルティング	13,500	
合 計			147,086	

※1 サポートインダストリー事業詳細は別紙参照

※2 日本の新成長産業の一つとして部材の軽量化、高強度化が期待される炭素繊維複合材料について自動車産業、航空機産業等における利用拡大を図るため、戦略分野コーディネータを配置し、産学官等が連携して研究開発を促進するための啓蒙普及活動等を実施する経済産業省委託事業。

人材育成事業（公2）

1. 平成27年度人材育成・研修事業実績

平成27年度の研修者実績数は、合計160名であった。

新規事業としてトライアルした「eラーニング」は、1講座の追加リリースにより計7講座にラインアップを揃えたものの単年で58名の受講者に留まった。

「出張研修」は、問合せ案件はあったものの受注には至らず、今後の強化課題としてH28年度にテコ入れを図ることとしている。

他団体共催の集合研修については、ほぼ計画通りの受講者を集め、かつ収支も若干の改善を図ることができた。

これらの既存研修事業については、開始以来同じ手法で継続してきており、環境変化への対応や受講ニーズの反映見直しが必要な時期に来ている。

次年度からは、受講者側に視点をおき、研修ニーズの掘り起しと、その為の調査・トライアルを実施して、より満足度の高い内容となるよう推進していく。

研修受講者実績推移表

※は H26～27 のみ

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
工作機械 (H20 年度～)	9	中止				
あいち環境塾 (H20 年度～)	20	20	20	20	20	20
あいち環境塾特別講座 ※					150	37
植物工場 (H23 年度～)		11	中止			
MOT (H17 年度～)	48	42	35	33	48	45
短期研修 H8.10～	11	10	12	中止		
集合研修計	88	83	67	53	218	102
企業 A	62	48	46			
企業 B			40			
企業 C			33	99		
学校法人 D			48			
企業 E					375	
出張研修計 H16～ (延べ人数)	62	48	167	99	375	0
e ラーニング				113	91	58
合計	150	131	234	265	684	160

(1) e ラーニング講座

計画通り 1 講座を追加リリースしたが、以後は新規講師の獲得ハードルが高いことと、当シリーズ受講数が想定した収支ベースに到底見込めないと判断し、新規制作は中止とする。(= 2 年間のトライアルで一旦凍結)

また、ネット広告出稿も高額投資に対し効果が出ないので中止する。

・・・ネット広告 (60 万円)、イベントでのチラシ配布 (無償)、DM 送付(600 件)等行うも、その効果が出てこないなので、今後は別方法で地道な PR をしていく。

<e ラーニング講座ラインアップ>

講座名	講師	リリース	H27 受講数
メカトロニクスのための電子回路 (応用編)	西堀賢司氏 (大同大名誉教授)	2015	3
メカトロニクスのための電子回路 (基礎編)	西堀賢司氏 (大同大名誉教授)	2014	7
振動工学の基礎	石田幸男氏 (名大名誉教授)	2014	5
流体力学 (基礎編)	鬼頭修己氏 (名工大名誉教授)	2014	11
乾燥技術の基礎 II	中村正秋氏 (名大名誉教授)	2014	8
乾燥技術の基礎 I	中村正秋氏 (名大名誉教授)	2014	13
回転機械の力学 (基礎編)	石田幸男氏 (名大名誉教授)	2013/11	11

(2) 出張研修

当年度は問合せが 3 件あったものの引合いには至らず、結果としてゼロで終わった。2 年間成り行き方針だったことを反省課題として方針転換し、H28 年度は強化事業と捉え、当研修の仕組みから見直すことで計画。

他の一般セミナーと差別化できる特長を十分訴求した魅力あるパンフを準備し、企業訪問機会等を通じて PR をしていく。

(3) 集合研修

従来から共催で行ってきた以下の2研修事業は、いずれも前年度の課題に取り組み、事前の対策準備が功を奏して、ほぼ期待通りの成果を得た。

①あいち環境塾

共催：愛知県環境部

目的：将来の環境関連リーダーの育成と産学官のネットワーク形成

塾生：募集数 20 名

講師：環境問題に関する著名人を幅広く招請、愛知県環境部や塾生をサポートするチューター陣で支援する体制。

内容：午前中は招聘した講師の講義、午後は講師とのディスカッションとチーム別の討論活動。期間は6月～11月（全14日間）、概ね2回/月開催。

最終日には副知事を迎え、愛知県への「環境政策提言」とし成果を発表。

あいち環境塾 講師・テーマ（平成27年度実績）

講 師	テーマ
基礎講座Ⅰ 愛知県環境部環境政策課 課長補佐 横井 歩 氏	愛知の環境政策
基礎講座Ⅱ ① 人間環境大学 環境教育センター 講師 藤井 芳一 氏	環境
② 名古屋大学 エコトピア科学研究所 グリーンシステム部門 教授 加藤 丈佳 氏	エネルギー
③ 相模女子大学学芸学部 教授 九里 徳康 氏	ファシリテーション
(公財) 廃棄物・3R研究財団 理事長 岡山大学 名誉教授 田中 勝 氏	廃棄物処理の課題と展望
東京工業大学 特命教授 柏木 孝夫 氏	日本のエネルギー戦略と 今後
横浜国立大学 名誉教授 浦野 紘平 氏	化学物質の有害性および リスクとその管理
(株)ユニバーサルデザイン総合研究所 所長 赤池 学 氏	自然に学ぶ科学技術
南山大学経営学部経営学科 教授 川北 眞紀子 氏	戦略PRを通じて 環境への取り組みを考える
東北大学大学院生命科学研究科 教授 中静 透 氏	生物多様性と 生態系サービス
神戸大学大学院経営学研究科 教授 尾崎 弘之 氏	環境ビジネスはいかに 成長戦略に貢献するか
(株)中日新聞社 論説委員 飯尾 歩 氏	環境ってなんだろう？ —メディアから
企業交流会 リコーエレメックス(株) 馬野 兼光 氏	企業での環境に関わる 取組み事例と、あいち環境研究会E SD分科会の 取組事例のご紹介
コーベベビー(株) 荒巻 道洋 氏	時間を創る仕事・リネンサプライ業 と おむつの話
●特別講座 中部大学 教授 武田 邦彦 氏	環境と産業の発展

②技術経営（MOT）研修

（公財）科学技術交流財団との共催で10～11月に開催。（全6日間/10講義）
27年度は、前年度アンケート結果を分析して、低評価講義の入替や受講者ニーズを反映させた講義の導入、参加者間交流の場の提供等により前年以上の評価を得た。

また、今回トライアルとして実施した、知の拠点の「施設見学会」も大変好評だった。但し、この研修は他財団主導での運営となっており、当財団としては共催支出だけで収入のない事業形態なので、この点を今後課題とする必要がある。

MOT 講師・テーマ（平成27年度実績）

講師	テーマ
（株）テクノ・インテグレーション 代表取締役 出川 通 氏	技術者・経営者のための最新 MOT （技術経営）の考え方
名古屋大学大学院 経済学研究科 教授 山田 基成 氏	経営戦略と 技術イノベーション
名古屋大学大学院 国際開発研究科 教授 西村 眞 氏	R&D における技術開発とビジネス モデルについて
キャビネ・プラスロー特許商標事務所 日本国弁理士 竹下 敦也 氏	事業戦略・海外戦略と知的財産
名古屋商科大学大学院マネジメント研究科 客員教授 伊佐田 文彦 氏	MOT のための戦略的思考・ ケーススタディ
セレンディップ・コンサルティング（株） 代表取締役 高村 徳康 氏	ファイナンス戦略・ワーク スタディ
（株）東レ経営研究所 MOT チーフディレクター 東京農工大学大学院 工学府 産業技術専攻 ゲスト講師 宮木 宏尚 氏	技術開発と事業戦略ケーススタ ディ ～東レ炭素繊維材”トレカ”の 技術開発と事業戦略～

以下入替新講義

名古屋工業大学大学院情報工学専攻 教授 梅崎 太造 氏	産学連携ベンチャービジネスの 秘訣
名古屋工業大学大学院 経済学研究科 客員教授 濱田 恵美子 氏	イノベーションマネジメント （柔軟な修正が実現性を高める）
富士フィルム株式会社 R & D 総括本部技術 戦略部 中村 善貞 氏	新規事業の創出 富士フィルム第二の創業と化粧品 事業の立ち上げ

技術移転事業（公3）

1. 平成27年度の状況

平成27年度の期初計画では、正味財産増減をほぼゼロの見通しを組んだが、実績は、▲6,890千円となった。

最大の要因は、技術移転収入が当初見込の29,000千円から16,950千円と大きく落ち込んだことである。

また、TLO事業活性化のために、コーディネータを大幅に増員し活用を図った結果、後述のように会費収入増に結びつける事ができたが、先行投資的な活動を行っているため、人件費の負担が増えた。

一方、自動車分野、バイオ分野を柱とした本年度の活動成果は、企業会員の増加につながり（バイオ系4社、工学系2社、その他1社）、会費収入は、前年度比1,409千円の増加となった。

1) 事業収入

①対価等収入

(単位：千円)

事 項	H27年度	予算	差	H26年度	差	備 考
実施許諾件数	8件	15件	△7件	21件	△13件	特許譲渡件数の減
成果有体物件数	4件	6件	△2件	4件	－件	
技術指導件数	4件	5件	△1件	3件	+1件	
実施許諾等収入	13,058	－	－	24,426	△11,368	ロイヤリティ大幅減及び譲渡収入減
成果有体物収入	2,145	－	－	2,105	+40	
技術指導収入	1,747	－	－	1,620	+127	
収入合計	16,950	29,000	△12,050	28,151	△11,201	

②会費収入

(単位：千円)

区 分	H27年度	予算	差	H26年度	差	備 考
企業会員数	39社	34社	+5社	33社	+6社	
会費収入	17,340	15,926	+1,414	15,931	+1,409	

③連携大学よりの業務委託費

(単位：千円)

事 項	H27年度	予算	差	H26年度	差	備 考
業務委託費	15,025	16,535	△1,510	17,494	△2,375	JST申請数の減等 が影響

連携大学より、下記業務を受託。

- ・ 発明評価業務（発明発掘含む）
- ・ 市場性評価業務
- ・ マーケティング業務（特許、成果有体物、データベース等）
- ・ 企業とのマッチング（共同研究仲介）
- ・ JST申請業務

（連携大学）

名古屋大学、名古屋工業大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、藤田保健衛生大学、愛知工業大学、豊橋技術科学大学等

2. 平成27年度個別事業活動状況

◎技術移転活動

大型ライセンスの候補案件が少なかった事、医薬原料に関する大型収入を見込んだライセンス先企業の生産調整があった事等が影響し、ライセンス収入は大幅の減となった。

◎特定分野の活動

①自動車産業関連分野

本年度は、炭素繊維複合材料（CFRP）の普及を目指す、「戦略分野コーディネータ事業」を経産局より受託。過去の次世代自動車コーディネータ事業で構築した研究者・企業ネットワークを更に充実を図るべく活発に活動している。

②ライフサイエンス分野

B I C O M（米サンディエゴのバイオクラスター）との連携強化を中心に業務を拡大している。特に、ベンチャー技術の紹介業務（コンサルティング業務）は、順調に増加しており、日本の医療産業の活性化に貢献している。

◎広報・啓発活動

①平成27年度の講演・出展活動の実績（詳細は後述一覧表参照）

	27年度		備考
	実施件数	前年差	
IoT、インダストリー4.0関連	7	+7	本年度の新規重点領域
戦略コーディネータ事業(素材)関連	11	+7	炭素繊維
次世代自動車関連	4	+1	
オープンイノベーション研究会(製薬)関連	4	+1	
交流会	1	±0	
その他	0	▲9	
合計	27	+7	

②会員企業交流会の開催

昨年度に引き続き、会員企業へのシーズ紹介、会員企業同士の交流を目的として以下のとおり開催した。（継続開催予定）

開催日	概要	参加者	備考
10月27日	<ul style="list-style-type: none"> 産学連携の活用で会社を新たなステージへ（(株) ナンプ 壁谷取締役） 無線管理システムを用いたIoT/M2Mシステム（東洋電機(株) 藤田部長） 画像処理研究の世界的展望、村瀬研究室内容と市場応用（名古屋大学 村瀬教授） 	26名	

③課題別セミナーの開催

- ・中小企業支援活動を推進し、新規会員獲得・技術相談などに結びつける事を目標としてセミナーを開催、参加企業とのネットワーク構築を通じた、種々の支援活動に取り組んだ。
- ・本年度は、IoTに関連した以下のセミナーを開催

開催日	セミナー名	概要	参加者	備考
10月 20日 28日	インダストリー4.0の課題とその対策 (今何をなすべき) クラウドを活用した事業革新のご提案 (全2日)	第1日：インダストリー4.0等を どうとらえるか 中部大 佐野教授 デンソー 小島部長 フロンティアワン 鍋野社長	27名	十六銀行共催
		第2日：日本初ソリューションの提案 愛工大 正木教授、 名市大 國本教授		
11月 6日 24日	中部I4講習会 (全2日)	第1日： IoT時代の中小企業のものづくり 法政大 西岡教授、 レクサリサーチ 中村社長	35名	日本機械学会 共催
		第2日： CAD/CAM, CAE, 計測を 含めたITツールについて (名城大成田准教授) 改めて考えるモノづくりに求め られるIT活用とは (NTTデータES 田中部長)		

- ・各講演内容は大変好評であった。またセミナー後のネットワーキング（交流会）も盛り上がり、中小企業とのパイプ作りに意義があった。
- ・また、中部I4講習会は、参加者からの研究会設立の要望もあり、限定メンバーで研究会の準備会を年度内に2回開催した。

(開催イベント一覧表)

平成27年度 イベント一覧			
区分	開催期日	名称	開催場所
講演会等開催・共催			
共催	平成27年5月13日	製薬企業オープンイノベーション説明会	名古屋市 藤田保健衛生大学
共催	平成27年6月1日	第1回オープンイノベーション創業情報交換会	名古屋市 名古屋大学
共催	平成27年6月26日	次世代自動車公開シンポジウム(第20回)	習志野市 日本大学生産工学部
共催	平成27年7月1日	医療産業参入支援試作・サービスサプライヤーマッチング	名古屋市 名古屋市立大学
共催	平成27年8月5日	次世代自動車公開シンポジウム(第21回)	名古屋市 名古屋大学
共催	平成27年8月6日	次世代自動車公開シンポジウム(第22回)	名古屋市 名古屋大学
共催	平成27年9月30日	製薬企業オープンイノベーション説明会	名古屋市 名古屋市立大学
主催	平成27年10月9日	CFRC実用化事例に関する講演会及び成形・加工見学会	米原市 東レカーボンマジック株式会社
主催	平成27年10月20日	「インダストリー4.0の課題とその対策(今なにをすべきか)ークラウドを活用した事業革新のご提案」セミナー(第1日)	名古屋市 TKPガーデンシティ名古屋
共催	平成27年10月26日	表面分析に関するセミナー	岐阜市 じゅうろくプラザ
主催	平成27年10月27日	中部TLO会員企業交流会	名古屋市 名古屋大学
主催	平成27年10月28日	「インダストリー4.0の課題とその対策(今なにをすべきか)ークラウドを活用した事業革新のご提案」セミナー(第2日)	名古屋市 TKPガーデンシティ名古屋
主催	平成27年10月30日	「ドイツ炭素繊維複合材料最新技術動向セミナー」	名古屋市 名古屋大学
主催	平成27年11月6日	「中部I4講習会」(第1回)	名古屋市 名古屋大学
主催	平成27年11月24日	CFRPの疲労予測に関する技術セミナー	金沢市 石川工業試験場
共催	平成27年11月24日	「中部I4講習会」(第2回)	名古屋市 名古屋大学
主催	平成27年12月10日～11日	東海北陸コンポジットハイウェイ コンベンション 2015	金沢市 北國新聞赤羽ホール
主催	平成27年12月18日	CFRC材料に関する技術セミナー及びワークショップ	名古屋市 名古屋プライムセントラルタワー13F
主催	平成27年12月24日	炭素繊維複合材分野への参入促進セミナー(第1回)	金沢市 金沢商工会議所会館研修室
主催	平成28年1月8日	炭素繊維複合材分野への参入促進セミナー(第2回)	金沢市 金沢商工会議所会館研修室
主催	平成28年1月15日	炭素繊維複合材分野への参入促進セミナー(第3回)	金沢市 金沢商工会議所会館研修室
共催	平成28年1月19日	次世代自動車公開シンポジウム(第23回)	名古屋市 名古屋大学
主催	平成28年1月26日	「中部IoT研究会・準備会」(第1回)	名古屋市 名古屋大学
共催	平成28年2月24日	CFTPIに関するセミナー	名古屋市 名古屋市工業研究所
主催	平成28年2月29日	「中部IoT研究会・準備会」(第2回)	名古屋市 名古屋大学
共催	平成28年3月18日	サーボプレス利用技術に関するセミナー	高岡市 富山県工業技術センター
主催	平成28年3月22日	「中部IoT研究会・準備会」(第3回)	名古屋市 名古屋大学
フェア等への出展・参加			
参加	平成29年7月17日	「第6回 AITテクノサロン」	豊田市 愛知工業大学
参加	平成27年10月12日～15日	BIO JAPAN2015	横浜市 パシフィコ横浜
参加	平成27年10月30日	名工大テクノフェア2015	名古屋市 名古屋工業大学
出展	平成27年11月25日	第9回産学官連携交流会(大府市)	大府市 市役所地下多目的ホール
参加	平成27年12月8日	「第7回 AITテクノサロン」	豊田市 愛知工業大学

II 収益事業

1. 受託研究事業

本研究所の所員・研究員により、企業からの研究委託に基づき、産業技術に関する研究を次のように実施した。

受託研究	27年度完了	85件
受託研究	28年度以降継続	15件
	計	100件

(26年度実績：完了83件、継続20件、28年度目標件数：新規90件、継続15件)

※詳細な各研究名称と研究者名は契約遵守のため割愛します

III 法人事業

1. 定款に関する事項

本年度中における定款変更なし

2. 役員・評議員・顧問・参与に関する事項

平成27年度

- (1) 役員（平成28年3月31日現在、理事20名、監事2名）
- (2) 評議員（平成28年3月31日現在、11名）
- (3) 顧問（平成28年3月31日現在、7名）
- (4) 参与（平成28年3月31日現在、24名）

3. 会議に関する事項

(1) 理事会開催

- I. 平成27年4月14日：臨時理事会（書面審議）
- II. 平成27年6月4日：通常理事会開催
- III. 平成27年7月22日：臨時理事会（書面審議）
- IV. 平成27年10月1日：臨時理事会（書面審議）
- V. 平成27年11月26日：臨時理事会（書面審議）
- VI. 平成28年1月14日：臨時理事会（書面審議）
- VII. 平成28年3月24日：通常理事会開催

(2) 評議員会開催

- I. 平成27年4月22日：臨時評議員会（書面審議）
- II. 平成27年6月23日：定時評議員会開催
- III. 平成27年7月31日：臨時評議員会（書面審議）
- IV. 平成27年10月13日：臨時評議員会（書面審議）
- V. 平成27年12月14日：臨時評議員会（書面審議）

(3) 委員会開催

① 研究部企画運営委員会

- I. 平成27年5月22日開催
- II. 平成28年2月19日開催

② 中部ハイテクセンター企画運営委員会

- I. 平成27年5月27日開催（書面審議）
- II. 平成27年7月6日開催（書面審議）
- III. 平成28年2月24日開催

③ TLO企画運営委員会

- I. 平成27年10月29日開催
- II. 平成28年2月29日開催

4. 賛助会員数推移

	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
会員数(社)	29	28	27	27	26	25
会費収入(千円)	4,400	4,300	3,900	3,900	3,900	3,700

以上

平成27年度研究事業一覧

(1) 本研究所の所員・研究員により産業の科学に関する基礎的研究として下記の調査研究を実施した。□

	研究担当者	所 属	研 究 項 目
1	石川 孝司	所員(中部大)	せん断加工における工具寿命延長法の検討(継続)
2	石田 康行	所員(中部大)	反応熱分解分析法による生体構成成分の構造キャラクタリゼーション
3	石原 一彰	所員(名大)	酸塩基複合化学を基盤とする高機能触媒の設計
4	伊藤 敬人	所員(三重大)	置換キノメチド類の2,らせん重合に関する研究
5	伊藤 秀章	所員(名大・名誉教授)	硬質材料の製造及び金属資源の回収と再利用に関する研究
6	伊藤 義人	所員(名大)	防護柵に関する車両衝突シミュレーション解析および評価
7	今西 誠之	所員(三重大)	リチウム金属負極の電極反応機構の解明
8	入谷 英司	所員(名大)	高度な粒子・液体系分離プロセスの開発のための基盤研究
9	鶴飼 裕之	所員(名工大)	次世代電力システムにおける運用・管理・制御方式に関する基礎的研究
10	宇佐美 勉	上席研究員(名大・名誉教授)	波形鋼板を芯材とする座屈拘束ブレース(BRB)の開発研究
11	梅村 章	上席研究員(名大・名誉教授)	落下実験から生まれた新しい微粒化概念の詳細検証～乱流微粒化シミュレータの構築を目指し～
12	榎田 洋一	所員(名大)	原子力エネルギー・システムのための燃料サイクルの研究
13	大谷 肇	所員(名工大)	高分子材料の劣化・変性およびリサイクリングプロセスに関する基礎研究
14	大野 信忠	所員(名大)	高精度非弾性材料モデルの有限要素法でのインプレメンテーション
15	小野 徹郎	所員(椙山女学園大)	連成座屈を考慮した柱材の耐力と変形能力
16	小野木克明	所員(名大)	離散事象システム論に基づく離散型生産システムの制御手法の開発
17	川崎 浩司	所員(名城大)	沿岸防災・環境評価システムに関する研究
18	川瀬 晃道	所員(名大)	テラヘルツ波と東洋医学の関係に関する検討
19	菅野 了次	所員(東工大)	イオニクス材料の新たな展開のための調査研究
20	菊田 浩一	所員(名大)	セラミックス製品の新規造形法の応用
21	北岡 教英	所員(徳島大)	自然で頑健な音声認識・対話システムの研究
22	木村 晃彦	所員(京大)	高温水環境中の材料強度に関する研究
23	葛 漢彬	所員(名城大)	魚骨形座屈拘束ブレース(FB-BRB)の開発研究
24	小長谷重次	上席研究員(名大・名誉教授)	高透明かつ高導電・高伝熱性複合材料の開発
25	小林 信介	所員(岐大)	マイクロバブル導入型旋回式クロスフローによる含油廃液処理への適用と応用検討
26	近藤 一義	所員(豊田工大)	開発した高精度塑性加工法の適用研究
27	齋藤 晃	所員(名大)	ALCHEMI法をもちいた合金中の添加元素占有サイトの解析
28	島田 俊夫	上席研究員(名大・名誉教授)	シングルスレッド高速化アーキテクチャの研究
29	社本 英二	所員(名大)	精密機械加工および精密機械要素に関する技術開発と応用
30	末永 康仁	所員(愛工大)	画像情報と位置情報を組み合わせた安全快適環境実現の研究
31	菅井 秀郎	所員(中部大)	マイクロ波プラズマを用いる材料プロセスの研究
32	千住 智信	所員(琉球大)	強風時の小型垂直軸型風力発電機の制御方法に関する研究
33	竹下 隆晴	所員(名工大)	高効率電力変換器に関する研究
34	武田 一哉	所員(名大)	人間行動の信号処理方法に関する研究
35	武田 保雄	所員(三重大)	次世代用リチウム二次電池のための新規材料の開発
36	田中 英一	所員(東海ポリテクカレッジ)	生体組織の力学特性のモデル化に関する研究
37	田辺 忠顕	社会基盤技術評価支援機構	せん断変形を陽にした準脆性材料の破壊則表示の汎用コードへの導入に関する研究
38	谷口 良一	所員(阪府大)	電池の充放電と微弱放射線の関係の精密計測
39	谷本 正幸	上席研究員(名大・名誉教授)	情報化社会における技術と文化に関する調査研究
40	辻 利秀	所員(前北陸先端大)	米国のスリーマイル島2号炉(TMI-2)の事故時の燃料ふるまいに関する研究
41	辻本 哲郎	上席研究員(名大・名誉教授)	河川水理学の体系化に関する研究
42	豊田 浩孝	所員(名大)	高密度マイクロ波プラズマ源の高性能化
43	長尾 雅行	所員(豊技大)	高分子絶縁材料の電気絶縁特性に関する調査研究
44	中野 環	所員(北大)	光を用いたキラル高分子の調製
45	中村 光	所員(名大)	鉄筋腐食したRC構造物のひび割れ進展と力学性能ならびに非破壊検査に関する実験的・解析的研究
46	成瀬 一郎	所員(名大)	流動層を用いた石炭オキシフューエル燃焼場におけるSO ₂ の生成機構解明
47	二宮 善彦	所員(中部大)	低品位石炭の燃焼における揮発性無機元素の挙動解析とその低減
48	野田 利弘	所員(名大)	真空圧密工法による超軟弱地盤の安定増加および残留沈下低減効果に関する検討
49	服部 忠	上席研究員(名大・名誉教授)	持続可能社会のための資源循環システム
50	早川 直樹	所員(名大)	傾斜機能材料(FGM)による電力機器の高性能化に関する研究
51	匹田 政幸	所員(九工大)	電力機器・デバイスにおける絶縁信頼性評価に関する研究

52	日比野高士	所員(名大)	プロトン導電体のエネルギー及び低環境負荷技術への応用
53	平井秀一郎	所員(東工大)	燃料電池・CO2隔離の研究
54	平澤 政廣	所員(名大)	塩化アンモニアによるCIGS化合物半導体からの成分回収
55	福田 敏男	所員(名城大)	インテリジェントロボットに関する研究
56	福和 伸夫	所員(名大)	地震災害被害軽減のための研究
57	穂積 直裕	所員(豊技大)	パルス伝搬を利用した電力ケーブルの状態モニタリング
58	堀 勝	所員(名大)	先進プラズマ科学とその応用
59	松井 恒雄	所員(中部大)	核燃料乾式再処理におけるLiCl-KCl熔融塩系の蒸発挙動に関する研究(その3)
60	松井 信行	所員(中部大)	パワエレ機器及びモータ駆動系のシステム統合化開発研究・調査研究
61	松田 仁樹	所員(名大)	固体残渣類の高度無害化-再資源化に関する研究
62	松村 年郎	所員(名大)	交流・直流大電流エネルギーの制御と応用技術に関する調査研究
63	水谷 孝	上席研究員(名大・名誉教授)	ナノ構造デバイスの作製と特性評価に関する研究
64	水谷 法美	所員(名大)	海岸構造物の耐津波安定性に関する研究
65	水野 幸男	所員(名工大)	電気機器から発生する磁界の定量化と評価
66	三矢 保永	上席研究員(名大・名誉教授)	ナノ潤滑膜評価用の摺動子アセンブリの高速用途への展開に関する研究
67	村瀬 洋	所員(名大)	低品質画像の認識原理とその応用に関する研究
68	村田 純教	所員(名大)	耐熱金属材料におけるマイクロ組織の形成および時間変化の要因解明
69	森川 高行	所員(名大)	ICTを活用した「賢い車」に関する研究
70	山下 博史	上席研究員(名大・名誉教授)	伝熱・燃焼工学に関する基礎研究
71	山田 保治	所員(神奈川大)	高機能有機-無機ナノハイブリッド材料の開発
72	山本 章夫	所員(名大)	Reduced Order Modeling による高効率炉心解析手法の開発
73	山本 一良	所員(名大)	原子力の社会的受容性に関する研究
74	山本 尚	所員(中部大)	効率的有機合成法の開発
75	横水 康伸	所員(名大)	高温ガスにおける諸特性に関する研究
76	吉田 朋子	所員(名大)	ガンマ線を用いた水素生成に関する研究
77	吉田 寿雄	所員(京大)	環境・エネルギーのための光触媒・光触媒反応の開発
78	渡邊 豊英	上席研究員(元名大)	知識経営活動に基づいた先進的学習支援
79	山口 茂弘	所員(名大)	機能的π電子系材料の創出

以上 79 件 (報告書未提出 2件を除く)
(この他、研究費残高100万未満のもの161件)

平成27年度 研究会一覧

(H27年度:届出順)

	研究会名	キーワード	主 査	実施期間		運営費 支 出
1	ELF磁界の化学反応、生化学反応促進効果研究会	ライフ、バイオ、環境	毛利 佳年雄(上席研究員)	27.4	29.3	有
2	次世代風力発電研究会	エネルギー	林 農(上席研究員)	27.4	29.3	有
3	人口減少社会での教育・産業システム研究会	ライフサイエンス	山根 隆(上席研究員)	27.12	28.11	無

平成27年度 科学研究費助成事業採択一覧（公1）

配分機関・種目	種別	研究課題名	研究代表者	研究分担者	配分類 (単位:千円)	研究期間	新規・継続別 (申請機関等)	
科学研究費助成事業(補助金及び基金助成金)・研究代表者分								
1	基盤研究(B)	一部基金	自由視点テレビの新しいフレームワークの構築	谷本 正幸	4,940	25~27	継続	
2	"	補助金	高移動度を示す有機トランジスター中のキャリアの電子状態とダイナミクス	黒田 新一	2,990	25~27	継続(名大)・分担者有	
3	"	"	座屈拘束された波形鋼材を芯材とする高機能制振ダンパーの研究開発	宇佐美 勉	6,890	27~29	新規(名城大)・分担者有	
4	基盤研究(C)	基金助成金	電界アシストを(利用した)スピン注入磁気メモリの研究	網島 滋	1,170	25~27	継続	
5	"	"	ミリ波通信用高Q・低誘電率LTCC(低温同時焼成セラミックス)材料の研究開発	大里 齊	1,560	25~27	継続・分担者有	
6	"	"	マルチメディア通信における状況適応型QoE向上基礎技術の研究	田坂 修二	1,430	25~27	継続(名工大)・分担者有	
7	"	"	グラフェンと導電性高分子との複合化によるフレキシブル透明導電膜材料の開発	小長谷 重次	1,040	25~27	継続(名大)	
8	"	"	多孔体流入壁を有する熱循環型超小型燃焼器の開発	山下 博史	650	25~27	継続(名大)	
9	"	"	陸上風車および洋上風車(着床式と浮体式)の制振	石田 幸男	1,170	26~28	継続・分担者有	
10	"	"	伝統工芸「有松・鳴海絞り」における括り作業ロボットの実用化研究	西堀 賢司	1,560	26~28	継続・分担者有	
11	"	"	結合形態を越えて成り立つヒューム・ロザリー型相安定化機構の研究	水谷 宇一郎	1,690	26~28	継続	
12	"	"	運動量流束とフルード数の有界性に着目した建築物への津波津波作用外力の評価	松井 徹哉	1,040	27~29	新規	
	計				26,130			
科学研究費助成事業(補助金及び基金助成金)・研究分担者分								
①	基盤研究(B)	補助金	微細機能性凸凹パターンを付与したナノ液体膜のトライボ特性とそのメカニズム	名大:張 賀東	三矢 保永	260	26~28	継続(名大)
②	"	"	場の制御によるケミカルフリーな微粒子分離技術の体系化と高度分離プロセスへの応用	法政大:森 隆昌	椿 淳一郎	130	27~29	新規(法政大)
③	基盤研究(C)	基金助成金	反跳粒子検出法をも用いたリチウムイオン二次電池中のリチウム挙動のダイナミクス研究	名城大:土屋 文	森田 健治	111	25~27	継続(名城大)口
	計				501			
					26,631			

平成27年度 産業科学フォーラム等活動記録

I 産業科学フォーラム

7月9日 第28回フォーラム 名古屋大学 VBL 棟 4F セミナー室

(参加者：16名)

趣旨：ナノファイバーのポリマーへの高分散充填技術の有用性と新規透明導電膜材料開発について紹介する

小長谷 重次（上席研究員）

「ITO 代替透明導電膜の研究開発動向」

9月15日 産業科学フォーラム2015 名古屋大学 VBL 棟 3F ベンチャーホール

(参加者：24名)

テーマ：循環型社会形成に向けた課題と展望－エコシステムの構築に向けて

竹谷 裕之（上席研究員）

「農業用使用済みプラスチックのリサイクル：動向と課題」

辻本 哲郎（上席研究員）

「河川生態系の保全と修復」

竹内 恒夫（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

「日本版『首長誓約』による地域創生」

12月10日 第29回フォーラム 名古屋大学 VBL 棟 3F ミーティングルーム

(参加者：14名)

趣旨：噴霧燃焼の燃焼形態および火炎伝播特性に与える液滴の大きさと数密度の影響に関する数値解析について紹介する

山下 博史（上席研究員）

「噴霧燃焼の燃焼形態および火炎伝播特性に関する数値解析」

II 名大博物館との共催事業

[達人と話そう 祝・ノーベル賞]

(名古屋市教育委員会生涯学習推進課大学連携キャンパス講座) 名古屋大学博物館講義室

(参加者：各回定員 80名)

5月9日 足立 守（名大・特任教授） 「鉱物（天然の結晶）と岩石」

5月16日 澤木 宣彦（専務理事） 「トランジスタと青色LEDの誕生」

5月23日 竹田 美和（上席研究員） 「青色LEDの意義と未来」

6月13日 水谷 宇一郎（上席研究員） 「人工結晶とLED」

平成 27 年度産学連携推進支援事業一覧（公 1）

戦略的基盤技術高度化支援事業（ホ^レイ）（5 件実施）

1	<p>研究テーマ コンポジット成形を高度化させた新たな工法開発の確立と、多層構造プラスチックの素材開発及び用途開発（H27.10～H30.3）</p>
	<p>研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトリーダー：(株)エムジーモールド／名古屋市 ・共同研究機関：東レペフ加工品(株)（滋賀県湖南市） ・アドバイザー：ダイハツ工業(株)、(株)イノアックコーポレーション、豊田合成(株)、カル 名古屋市工業研究所、山宗(株)、坂本工業(株)、TOTO バスクリエイト(株) <p>2枚の樹脂シートから中空体を作るコンポジット成形の高度化に挑戦する。今回の研究開発では複合素材を作った断熱・吸音等の高機能中空体は勿論、多層真空成形品の一体成形による工程削減、コア材のインサート成形による新しい高剛性を兼ね備えた機能品、空気断熱層を設けた新しい製品の一体成形への取り組み等、今までのコンポジット成形とは全く異なる視点で新しい技術・用途開発に取り組む。</p> </p>
2	<p>研究テーマ 複雑形状難めっき材料への六価クロムフリーメタライジング法の開発（H27.10～H30.3）</p>
	<p>研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトリーダー：東洋理工(株)／安城市 ・共同研究機関：(株)いおう化学研究所、岩手大学、名古屋市工業研究所 ・アドバイザー：アルプス電気(株)、トヨタ自動車(株)、 <p>携帯電話やパーソナルコンピュータ、各種タブレット端末に代表される電子機器の軽薄短小化の為に、それら電子機器の電子基板等のコア部品について、性能を維持しつつ構造や仕様の最適化を行う必要がある。</p> <p>本事業ではトリアジンチオールによる分子接着接合等を技術シーズとした、六価クロムフリーの環境調和型めっき技術を確立し難めっき高機能材料の電子機器コア部品に応用する事で、電子機器の高性能化と軽薄短小化を両立する。</p> </p>
3	<p>研究テーマ【一般型】 スライド構造を持つ超微細なカテーテルを実現する細径加工技術、極小被覆技術の研究開発（H25.9～H28.3）</p>
	<p>研究内容 <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトリーダー：荒井 崇（(株)東海メディカルプロダクツ／春日井市） ・共同研究機関：名古屋大学、金子コード(株)メディカル部（浜松市） ・アドバイザー：(株)レーザックス、宮地准教授（大阪医科大学）、(株)Medical Design <p>脳血管治療、腹部抗癌剤注入等に使用されるマイクロカテーテルにおいて、カテーテルチューブの超細径化を可能にするプラスチックチューブ成形技術を開発し、マイクロインマイクロカテーテルにおいて、従来のものより細径部に挿入でき、動脈瘤等へのコイル状塞栓物質を注入実現可能な超微細カテーテルを実現する。マイクロカテー</p> </p>

	<p>テル、及び応用されるマイクロバルーンカテーテルの微細極小化は、より極細部の脳疾患や全身の微細血管系疾患の治療を可能にし、治療効果向上、カテーテル術成功率改善が期待できる。</p>
4	<p>研究テーマ【小規模事業者型】 金型の60%長寿命化を実現するニュートラル窒化処理装置の開発とユニット交換方式を採用したドライプレス金型の開発、および両者を活用した量産システムの確立による加工油洗浄工程の削減 (H25.9～H28.3)</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトリーダー：森光賢（㈱ウチダ製作所／知多市） ・共同研究機関：名城大学 ・アドバイザー：アイシン辰栄㈱、名古屋市工業研究所 <p>当社はチタンコートでドライプレスを実現しているが、量産に踏み切る加工数の目標には達していない。DLCは低コスト化と摩耗後の再利用に難がある。本研究ではニュートラル窒化装置を開発し、チタンコートと複合加工することで、従来とコストは変わらず、加工数を60%高めることを目標としている。またユニット交換式の金型とすることで、摩耗後の再処理が容易で、ドライプレスを量産工程での本格使用を可能とする。これより加工油の洗浄工程を削減する。</p>
5	<p>研究テーマ【小規模事業者型】 レーザとプラズマによる異種材料直接接合装置の開発 (H25.9～H28.3)</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトリーダー：前田 知宏（輝創㈱／守山区） ・共同研究機関：名古屋工業大学、あいち産業科学技術総合センター ・アドバイザー：㈱デンソー <p>次世代自動車を始め産業分野において軽量化の鍵となるのが異材接合技術である。本開発では金属とプラスチックを直接接合する技術と加工装置の開発を行う。陽極酸化などによってポーラス構造を形成した金属の接合面にプラズマ照射を行うことで濡れ性を向上させ、レーザ照射により局所的に熔融したプラスチックがポーラス構造内へ浸透することで強固な直接接合を行う技術を開発する。そして、実際の部品加工に適した装置を開発する。</p>

I. 財団庶務・会議関係の報告事項

1. 定款に関する事項

本年度中における定款の変更はなかった。

2. 役員・評議員・顧問・参与に関する事項

(1) 役員（平成28年3月31日現在 順不同・敬称略）

理事長	内藤 進	(リンナイ株式会社 取締役会長)
専務理事	澤木 宣彦	(愛知工業大学 教授)
常務理事	蔵藤 寛	
理事・所長	架谷 昌信	(愛知工業大学 特任教授)
理事・副所長・ 研究部長	鈴置 保雄	(名古屋大学大学院 教授)
理事・CHC担当	新美 智秀	(名古屋大学 大学院工学研究科長・工学部長 教授)
理事・CTLO担当	小野木克明	(名古屋大学大学院 工学研究科 教授)
理事	小菅 祥平	(東邦ガス株式会社 執行役員技術企画部 部長)
〃	小森 憲昭	(中部電力株式会社 技術開発本部 部長)
〃	近藤 雄二	(リンナイ株式会社 取締役常務執行役員開発本部長)
〃	水野 賢一	(日本特殊陶業株式会社 技術開発本部企画管理部 部長)
〃	森 和久	(愛知時計電機株式会社 執行役員 R&D 本部 本部長)
〃	立石 裕	(産業技術総合研究所 中部センター 所長)
〃	松下 裕秀	(名古屋大学 理事・副総長 教授)
〃	石田 誠	(豊橋技術科学大学 理事・副学長)
〃	後藤 淳	(学校法人名古屋電気学園 理事長)
〃	六郷 恵哲	(岐阜大学 工学部長 教授)
〃	清水 真	(三重大学大学院 工学研究科長 教授)
〃	後藤 俊夫	(中部大学 副学長 教授)
〃	吉久 光一	(名城大学 学長)

以上 20 名

監 事

〃	山田 功	(愛知電機株式会社 相談役)
〃	冨田 俊雄	(オークマ株式会社 常勤監査役)

以上 2 名

[理事の異動履歴] ※は常務理事交替

異動日	承認	退任者	新任者
H27. 4. 22	臨時評議員会	近藤 邦彦	森 和久
		中村 文彦	水野 賢一
		中根 敏晴	吉久 光一
			新美 智秀
H27. 7. 31	臨時評議員会	北山 泰久	小森 憲昭
H27. 10. 13	臨時評議員会	伊藤 智徳	清水 真
H27. 12. 14	臨時評議員会	辻澤 勝	蔵藤 寛
H28. 1. 14	臨時理事会	辻澤 勝※	蔵藤 寛※

(2) 評議員 (平成 28 年 3 月 31 日現在 順不同・敬称略)

評議員	加藤 良文 (株式会社デンソー 常務役員)
〃	小西 工己 (トヨタ自動車株式会社 常務役員)
〃	鈴木 清美 (名古屋鉄道株式会社 常務取締役鉄道事業本部副本部長兼車両部長)
〃	鈴木 健一 (中部電力株式会社 専務執行役員技術開発本部長)
〃	中村 修 (東邦ガス株式会社 取締役専務執行役員 技術開発本部長)
〃	加納 廣和 (愛知県産業労働部 技監)
〃	浅尾 文博 (名古屋市 市民経済局 参事)
〃	鶴田 欣也 (愛知県中小企業団体中央会 会長)
〃	内川 尚一 (名古屋商工会議所 常務理事・事務局長)
〃	財満 鎮明 (名古屋大学 副総長)
〃	江龍 修 (名古屋工業大学 副学長)

以上 11 名

[評議員の異動履歴]

異動日	承認	退任者	新任者
H27. 4. 22	臨時評議員会	吉貴 寛良	小西 工己

(3) 顧問 (平成 28 年 3 月 31 日現在 順不同・敬称略)

顧問	濱口 道成 (公益財団法人科学技術交流財団 理事長)
〃	大村 秀章 (愛知県 知事)
〃	河村たかし (名古屋市 市長)
〃	豊田章一郎 (トヨタ自動車株式会社 名誉会長)
〃	岡谷 篤一 (名古屋商工会議所 会頭)
〃	花木 義麿 (オークマ株式会社 取締役社長)
〃	丸勢 進 (名古屋大学 名誉教授)

以上 7 名

[顧問の異動]

異動日	承認	退任者	新任者
H27. 7. 22	臨時理事会	松尾 稔	濱口 道成

(4) 参与 (平成 28 年 3 月 31 日現在 順不同・敬称略)

参与	松尾 清一 (名古屋大学 総長)
〃	鵜飼 裕之 (名古屋工業大学 学長)
〃	大西 隆 (豊橋技術科学大学 学長)
〃	高井 吉明 (豊田工業高等専門学校 校長)
〃	澤岡 昭 (大同大学 学長)
〃	山下 興亜 (中部大学 学長)
〃	榊 裕之 (豊田工業大学 学長)
〃	飯島 信司 (名古屋大学大学院工学研究科 教授)
〃	稲垣 康善 (名古屋大学 名誉教授)
〃	大西 昇 (名古屋大学情報科学研究科 教授)
〃	高橋 雅英 (名古屋大学大学院 医学系研究科長 教授)

- 〃 竹市 力 (豊橋技術科学大学 教授)
- 〃 早川 義一 (名古屋大学大学院工学研究科 教授)
- 〃 林 良嗣 (名古屋大学大学院環境学研究科 教授)
- 〃 藤本 英雄 (名古屋工業大学大学院工学研究科 プロジェクト特任教授)
- 〃 松村 年郎 (名古屋大学大学院工学研究科 教授)
- 〃 山本 昌治 (あいち産業科学技術総合センター 所長)
- 〃 平野 幸治 (名古屋市工業研究所 所長)
- 〃 石津 一正 (日本車輛製造株式会社 常務取締役開発本部長)
- 〃 大倉 勝徳 (株式会社デンソー 理事 基礎研究所長)
- 〃 香川 利光 (三幸電子株式会社 代表取締役)
- 〃 川崎 真司 (日本ガイシ株式会社 基盤技術研究所 所長)
- 〃 高橋 信次 (新東工業株式会社 取締役)
- 〃 早川 登 (東朋テクノロジー株式会社 取締役副社長)

以上 24 名

[参与の異動履歴]

異動日	承認	退任者	新任者
H27. 5. 26	理事長	濱口 道成	松尾 清一

3. 会議に関する事項

(1) 理事会

I. 平成 27 年 4 月 14 日：臨時理事会 (書面審議)

議 題 i 評議員召集の決定の件 (評議員・理事選任の件)

II. 平成 27 年 6 月 4 日：通常理事会

議 題 i 平成 26 年度事業報告(案)に関する件

ii 平成 26 年度財務諸表(案)に関する件

iii 定時評議員会の目的及び場所並びに目的である事項等(案)に関する件
(報告) 内閣府への事業報告等に係る提出書類に関する件
(報告) 代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況報告

III. 平成 27 年 7 月 22 日：臨時理事会 (書面審議)

議 題 i 評議員会招集の決定の件 (理事選任の件)

ii 顧問委嘱の件

IV. 平成 27 年 10 月 1 日：臨時理事会 (書面審議)

議 題 i 評議員会招集の決定の件 (理事選任の件)

ii 公益事業強化のための拡充積立資産取り崩しの件

V. 平成 27 年 11 月 26 日：臨時理事会 (書面審議)

議 題 i 評議員会招集の決定の件 (理事選任の件)

ii 銀行借入れのため拡充積立資産担保供与に関する件

VI. 平成 28 年 1 月 14 日：臨時理事会（書面審議）

議 題 i 常務理事選任の件

VII. 平成 28 年 3 月 24 日：通常理事会

議 題 i 平成 28 年度事業計画（案）に関する件
ii 平成 28 年度収支予算書（案）に関する件
iii 平成 28 年度資金調達及び設備投資の見込みに関する件
iv 諸規程の見直し案件（改訂案）に関する件
（報告）代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況報告

(2) 評 議 員 会

I. 平成 27 年 4 月 22 日：臨時評議員会（書面審議）

議 題 i 評議員選任の件

II. 平成 27 年 6 月 23 日：定時評議員会

議 題 i 平成 26 年度事業報告（案）に関する件
ii 平成 26 年度財務諸表（案）に関する件
iii 役員（理事・監事）選任（案）に関する件
（報告）顧問・参与委嘱に関する件（報告）
（報告）平成 27 年度事業計画並びに収支予算に関する件
（報告）内閣府への事業報告等に係る提出書類に関する件
（報告）代表理事、業務執行理事の職務の執行の状況報告

III. 平成 27 年 7 月 31 日：臨時評議員会

議 題 i 理事選任の件

IV. 平成 27 年 10 月 13 日：臨時評議員会

議 題 i 理事選任の件

V. 平成 27 年 12 月 14 日：臨時評議員会

議 題 i 理事選任の件

(3) 委 員 会

① 研究部企画運営委員会

I 平成 27 年 5 月 22 日

議 題 i 幹事会報告について（報告）
ii 平成 26 年度事業報告書（案）について
iii 平成 27 年度収支決算書（案）について

II 平成 28 年 2 月 19 日

議 題 i 幹事会報告について（報告）
ii 平成 28 年度研究部事業概要（案）について
iii 平成 28 年度研究部予算（案）について
iv 名産研における不正行為に関する取扱基準の一部改正案について

② 中部ハイテクセンター企画運営委員会

I 平成 27 年 5 月 27 日（書面審議）

議 題 i 平成 26 年度事業報告・収支報告（案）について

II 平成 27 年 7 月 6 日（書面審議）

議 題 i 正副委員長選任の件

III 平成 28 年 2 月 24 日

議 題 i 平成 28 年度事業計画・予算（案）について

③ TLO 企画運営委員会

I 平成 27 年 10 月 29 日

議 題 i 平成 26 年度事業報告・決算について

ii 平成 27 年度事業活動状況について

iii 平成 27 年度収支決算見込みについて

II 平成 28 年 2 月 29 日

議 題 i 平成 27 年度事業報告案について

ii 平成 27 年度決算見込について

iii 平成 28 年度事業計画案について

iv 平成 28 年度収支予算について

v 中部 TLO 中期計画について

④ 公募型研究開発事業審査委員会

開催なし